

1. 授業の目的と概要

テーマ：もの造りのロジック

内容

この講義では、工業企業の開発・生産活動を、現実の企業活動から乖離することなく、経済学的・経営学的にとらえるロジックについて学ぶ。企業・産業研究には方法上のトレード・オフがある。個別企業に対する実態調査によれば、ひとつひとつの指摘がリアリティを持つ一方で、そこに貫かれているロジックを認識することは容易ではない。他方で、経済学・経営学のロジックを具体的な企業に適用しようとする、論理的整合性はつきやすいものの、実態とかけ離れた空論になってしまうことが少なくない。この講義は、そのギャップを埋めるような研究方法を探る。

2. 学習の到達目標

・工業企業の開発・生産活動を、現実の企業活動から乖離することなく、経済学的・経営学的にとらえる能力を身につける。

3. 授業の内容・方法と進度予定

テキストの内容を、産業調査や企業調査の実例によって補いながら通年で講義を行う。

1 生産システムの基礎 / 2 競争力ファクターの管理 / 3 経営資源の管理・改善 / 4 製品開発の管理と能力構築

4. 成績評価方法

レポートと平常の成績による。5月末までに申し出た者に限り、履修放棄を認める。

5. 教科書と参考書

受講前に：藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年を読み、この内容に関心を持てるかどうかで受講するかどうかを考えるとよい。

テキスト：藤本隆宏『生産マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年。テキストに沿って講義と討論を行う。

参考書：大量の参考文献を用いるので、その都度指示する。

6. 予習と復習について

予習：テキストと、事前に指示した参考文献を読んでくること。

復習：レポート提出に備えておこなうこと。

7. その他

この講義を受ける上で重要なことは、企業活動の具体的な姿への関心を持つことが第一である。大学院レベルの講義であるが、ミクロ経済学、政治経済学、経営学のいずれかの基礎的な素養があり、関連する専門科目を並行して学ぶのであればついて来られるだろう。参加人数によって、講義形式、演習形式を使い分ける。講義は日本語で行う。テキストも日本語である。時々の課題図書には、日本語文献と英語文献を含む。レポートを提出する場合は、日本語か英語の選択とする。